

# 芭蕉研究資料集成

昭和前期篇全19卷  
久富哲雄監修・解題

クレス出版



# 『芭蕉研究資料集成 昭和前期篇』刊行にあたって

鶴見大学女子短期大学教授

久 富 哲 雄



大正十五年六月に「日本俳書大系第一巻」として勝峰晋風編『芭蕉一代集』が刊行され、昭和三年三月までに全十七冊が出て、俳諧研究の確固たる基礎が築かれた。『芭蕉一代集』は二分冊の普及版を経て、『新芭蕉一代集』(昭六。特装版一冊。普及版四冊)となり、贅川他石の校訂を経た沼波瓊音編『改訂芭蕉全集』(昭三)と共に、芭蕉の作品研究の基本図書として長く研究者に恩恵をもたらした。

このほか、『俳書集覧』全六冊・『校俳文学大系』全十二冊も出版され、芭蕉研究のみならず、広く俳諧研究に貴重な資料を提供した。

昭和前期の芭蕉研究が、大正期のそれを承け継ぎ、進展させていることは、前述の芭蕉の作品集成に見ても明らかであろう。これを伝記研究の方面に見ると、『芭蕉庵桃青』(明三六)を発展させた山崎藤吉著『芭蕉全伝』(昭一〇)、『詩人芭蕉』(大九五)に大改訂を施した萩原蘿月著『芭蕉の全貌』(昭一〇)を挙げることができる。

志田義秀著『問題の点を芭蕉の伝記の研究』(昭一二)は著者の学位論文で、芭蕉の伝記のうちの問題点を考究して新見を述べた論考として高い評価を得、以後の芭蕉伝記研究に少なからぬ影響を与えた。

作品研究の面では『大芭蕉全集』全十二冊(昭一〇〜一二)の出版があり、更には三省堂版『芭蕉講座』全九冊(昭一七〜二六)の刊行も始まった。作品研究が次第に深められ、その成果がそれぞれの形で結実したものである。

発句・連句・紀行・書簡・俳論等の分野にも多くの研究成果が挙げられ、昭和中期・後期の、俳文学会を中心とする研究活動に直結して行くのである。いま、不幸な戦争で失われ古書市場にも余り見かけなくなった昭和前期(昭和二年・二二年頃まで)の芭蕉研究書の若干を復刻して、今後の研究に少しでも役に立てばと希望するものである。

## 『芭蕉研究資料集成』昭和前期篇 全19巻構成

〈伝記・総記〉

1	俳人芭蕉傳	加藤 紫舟	天来書房 昭和9年7月25日
2	芭蕉全傳	山崎 藤吉	叢文閣 昭和10年2月19日
3	芭蕉の全貌	萩原 蘿月	三省堂 昭和10年9月20日
4	問題の点を 主としたる 芭蕉の傳記の研究	志田 義秀	河出書房 昭和13年10月18日
4	は せ を	菊山當年男	寶雲舎 昭和15年11月10日
5	俳人芭蕉の研究	鈴木 重雅	柳原書店 昭和18年9月15日
5	奥の細道・芭蕉・蕪村	志田 義秀	東京修文館 昭和16年3月5日
6	俳聖芭蕉	野田別天樓	理想社 昭和19年5月10日
6	芭蕉展望	志田 義秀	日本評論社 昭和21年1月15日
7	芭蕉翁雑考	大河 寥々	資文堂書店 昭和2年11月20日

〈俳 論〉

1	去來抄新講 上	宇田 久	俳書堂 昭和10年3月26日
1	芭蕉と俳諧の精神	志田 義秀	日本文化協会 昭和13年4月30日
2	俳諧の國 — 芭蕉論稿 —	山崎 喜好	七丈書院 昭和19年3月20日

〈作品研究〉

1	七部集猿蓑評釋	新田 寛	大同館書店 昭和7年4月25日
2	猿蓑俳句鑑賞	伊藤 月草	古今書院 昭和15年5月15日
2	芭蕉名句評釋	島田 青峰	非凡閣 昭和9年11月5日
3	七部集 俳句鑑賞	川島 つゆ	春秋社松柏館 昭和15年11月25日
4	芭蕉句集新講 上巻	服部 畊石	四條書房 昭和7年9月20日
4	芭蕉句集新講 下巻	服部 畊石	四條書房 昭和7年11月20日
5	芭蕉句集新講 下巻	服部 畊石	四條書房 昭和7年11月20日
5	新譯 芭蕉紀行全集 卷一、卷二	三村 鴻堂	立川書店 昭和2年6月20、30日
6	奥の細道詳解	山崎 麓	欽英堂書店 昭和5年6月20日
7	奥の細道評釋	樋口 功	麻田書店 昭和5年2月1日
8	『奥の細道』 総合研究	志田義秀他	改造社『俳句研究』 昭和10年5月、11年12月
8	奥の細道古註	頼原退蔵	昭和10年5月、11年12月
9	莊内に於ける芭蕉	荻原井泉水	育英書院 昭和11年2月18日
9	莊内に於ける芭蕉	玄々堂芦汀	喜峯社 昭和10年3月30日
9	芭蕉と紀行文	玄々堂芦汀	喜峯社 昭和10年3月30日
9	芭蕉と紀行文	鈴木 秀夫	東北出版協会 昭和28年7月20日
10	芭蕉旅心	小宮 豊隆	白日書院 昭和22年2月25日
10	増訂 おくのほそ道の基礎研究	飯野 哲二	国文社 昭和29年3月25日

# 『芭蕉研究資料集成 昭和前期篇』推薦

お茶の水女子大学名誉教授  
文学博士

井本 農 一

芭蕉の研究は日進月歩であって、今日も研究書や研究論文が陸續と発表されている。戦後の芭蕉研究は敗戦の傷手がようやく収まった昭和二十三年、四年ごろから緒についたと記憶するが、昭和二十六年の俳文学会の創立がこれに拍車をかけたかも知れない。しかし今日の隆盛の基盤になったものは、昭和前期の芭蕉研究であろう。私自身のことでは、学生時代、昭和十年ごろに萩原蘿月著『芭蕉の全貌』を読んで蒙を啓かれ、数年して昭和十三年に志田義秀著『問題の点を主としたる芭蕉の伝記の研究』に接して開眼したと言えようか。

## 今も必読文献揃いの昭和前期篇

東洋大学短期大学名誉教授  
文学博士

村松 友次

『芭蕉研究資料集成』「明治篇九巻」、「大正篇十一巻」（四十七点一万数千ページ）を前にすると、その膨大さ、その博搜に圧倒される。

この集成を単に本を集めて復刻しただけではないかなどと単純に考えたら大間違いである。明治・大正にかけての芭蕉文献は、この集成の何倍何十倍もある。それらのすべてを検討し、今日及び将来にわたって価値あるもののみを選び出し問題を施すのは年季の要る仕事である。芭蕉研究一筋に徹した編者の蓄積がものを言っている。

今度昭和前期篇（太平洋戦争終結後一、二年まで）が同様の企画で出版される。この時期には加藤紫舟、山崎藤吉の二俊秀、大正期から続いている萩原蘿月ら

この度久富哲雄氏の監修・解題によって成る『芭蕉研究資料集成 昭和前期篇』は、昭和初年から敗戦後一、二年頃までの芭蕉研究の主なる名著を集めて復刻したもので、全体を「伝記・総記」「俳論」「作品研究」の三部立とし、同時代の名著はほぼ網羅されている。ここに編修された諸書を系統的に、年次を追って読めば、昭和前期の芭蕉研究を大観できる。またそれによって芭蕉研究史を読むことにもなるであろう。研究史を読むことが、現在の研究を反省し、新しい研究の方向や方法を考える上で重要な寄与をすることは言を俟たない。ここに収められた書を、今日個人が全部蒐集しようとしてもほとんど不可能であろう。出来ても莫大な手間と経費を要するに相違ない。実にありがたい「集成」である。

監修者の久富哲雄氏にはすでに『芭蕉研究資料集成 明治篇』『同 大正篇』があり、この種の仕事の綿密丁寧さについては定評がある。必ずや大方の期待にこたえる「集成」になることを確信して、ここに推薦する。研究者個人はもとより、図書館や大学研究室には必備の書と言えよう。

の研究が注目され、中でも志田義秀の『問題の点を主としたる芭蕉の伝記の研究』は、現在では古書店で高値がついているし、菊山当年男の寺の過去帳や墓石しらべに始まる地の利を生かしての実証的研究が出て来た。『荘内に於ける芭蕉』は『おくのほそ道』の地方研究の口火を切ったものである。

今回の集成中の異色は「奥の細道総合研究」であろう。これは雑誌『俳句研究』にほぼ二年間にわたり、志田義秀・樋口功・嶋田青峰・頼原退蔵・斎藤清衛・石田元季ら一流の学者が分担執筆したものである。当時の雑誌を二年分ほど現在入手しようとしても不可能である。『おくのほそ道』研究では、飯野哲二の『おくのほそ道の基礎研究』も逸することはできない。

我々はこれによって明治以降昭和前期までの芭蕉研究の目ぼしいすべてを座右に置くことができるわけである。つくづく有難い。

ところで望蜀の言を許してもらえば、誰か江戸時代の芭蕉研究をこうして「集成」してくれないものか。芭蕉研究は蕪村と違って江戸時代からすでに盛んであった。特に伝記研究や発句・連句の註解等には注目すべきものが多い。誰か、それこそ畢生の仕事としてやってくれないものか。

# 芭蕉研究資料集成

昭和前期篇全19巻 久富哲雄監修・解題

## ●造本・体裁

A5判・上製函入・本文クリーム中性紙使用

## ●刊行予定・定価(分売不可)

●第一回配本(伝記・総記)〈俳論〉全9巻

一九九五年六月末日

揃定価一三九、〇五〇円(本体一三五、〇〇〇円)

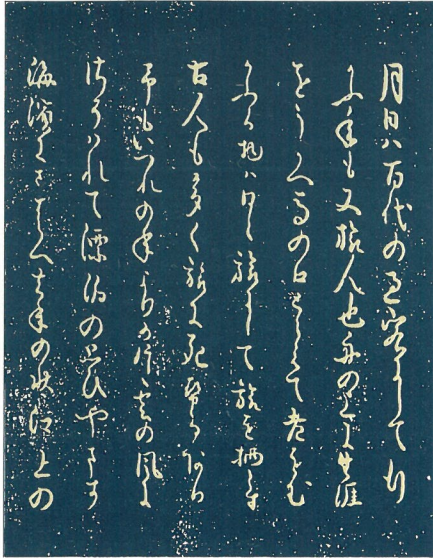
●第二回配本(作品研究)全10巻

一九九六年一月末日

揃定価一四四、二〇〇円(本体一四〇、〇〇〇円)

●昭和前期篇全19巻

揃定価二八三、二五〇円(本体二七五、〇〇〇円)



## ◆国文学関係書籍の御案内

### 芭蕉研究資料集成

全20巻 久富哲雄監修・解題

俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。

明治篇全9巻

揃定価一〇九、一八〇円(本体一〇六、〇〇〇円)

大正篇全11巻

揃定価一五四、五〇〇円(本体一五〇、〇〇〇円)

### 蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解題

日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。

揃定価一九一、五八〇円(本体一八六、〇〇〇円)

### 西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解題

江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。

揃定価一二九、七八〇円(本体一二六、〇〇〇円)

### 近世文芸研究叢書

第一期文学篇全23巻 近世文芸研究叢書刊行会編

近世文芸に関する明治大正に刊行された名著稀書を復刊。

1、通史 全7巻 揃定価八二、四〇〇円

2、一般 全7巻 揃定価九八、八八〇円

3、作家 全9巻 揃定価一一八、四五〇円

揃定価二九九、七三〇円(本体二九一、〇〇〇円)

### 俚言集覽 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解題

江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覽』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない書き込み等も多く、研究者に新たな資料を供与する。

揃定価一五四、五〇〇円(本体一五〇、〇〇〇円)

### 徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編

徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七十二名の伝記集。年譜・肖像画付。

揃定価七八、二八〇円(本体七六、〇〇〇円)

### 日本鹿子

磯貝舟也著 久富哲雄解題

元祿四年三月刊行の、全国的な道・国別の地誌十五巻を復刻。城・陣屋・神社・仏閣・名所・名物等を詳細に記述する、江戸文化研究者必携の書。

定価一八、五四〇円(本体一八、〇〇〇円)

### 影印(仮名)錦繡段・三體詩・古文真寶

久富哲雄編・解題

江戸期に刊行された貴重な振仮名つき漢詩文集を復刻、『錦繡段』三體詩は、天和版と元祿版の二種類を収録。近世の文学作品読解の参考となる文献集。定価一〇、三〇〇円(本体一〇、〇〇〇円)

〒103東京都中央区日本橋小伝馬町14-15 ヌローナ日本橋  
☎03(3)38081182 FAX03(3)38081182

株式会社 クレス出版